

所属・資格 史学科・教授

申請者氏名 関 幸彦

研究課題		前近代に於ける武家と天皇
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>わが国の歴史の大局を考える際、武家（武士）と天皇という2つの政治的磁場が点滅した時代があった。中世初期と近世末期である。12世紀末と19世紀半ばはその武家及び天皇がせめぎ合う形で当時の歴史を規定した。</p> <p>この点をふまえて、日本史の中での武家（幕府）及び天皇の位置づけに関して、近現代の様々な文献史料（特に史論書）を汲み上げ整理する。</p>
	研究の結果	<p>『神皇正統記』や『読史余論』さらに『大日本史』等々の史論での武家や天皇の位置づけをふまえ、特に鎌倉、室町、江戸の各時代での幕府観に関して諸種の角度から検討を加えた。そこでは下記の成果物にも発表したように、武家は対公家・天皇の存立の上で、公武合体的ベクトルを有し、それがわが国の公武観の基調であった点を看取できた。</p>
	研究の考察・反省	<p>中世の南北朝期の吉野の位置づけが必ずしも充分ではなく、今後の課題となる。加えて、天皇と年号の関係についても省察すべき点が少なくない。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。  研究成果物 関幸彦「宝剣説話を耕す」（倉本一宏編『説話研究を拓く』思文閣、2019） 関幸彦『その後の鎌倉』（山川出版社、2018）	